

何を学ぶのか

ドイツ語ドイツ文学専攻ではドイツ文学・文化およびドイツ言語学の専門知識を身につけることはもちろん、ベースとなるドイツ語運用能力の向上も重視します。また、ティーチング・アシスタントとして教育経験を積むこともできます。



大貫敦子 教授

専門

おもな研究領域は19世紀末～1920年代の文化です。様々な芸術の領域で新しい試みが生まれたこの時代における価値観の変化と、芸術における新たな表現方法の関係について、思想史や社会文化史を含めた分析を行っています。

授業

最近の授業では、「ドイツ」という文化的アイデンティティの形成とその問題をテーマとしています。「ドイツ性」をめぐる美術史の言説や、ナショナル・アイデンティティを生み出す「記憶の場」に関する文献を読み、文化学的アプローチの基礎と読解力の習得を目指す授業としています。



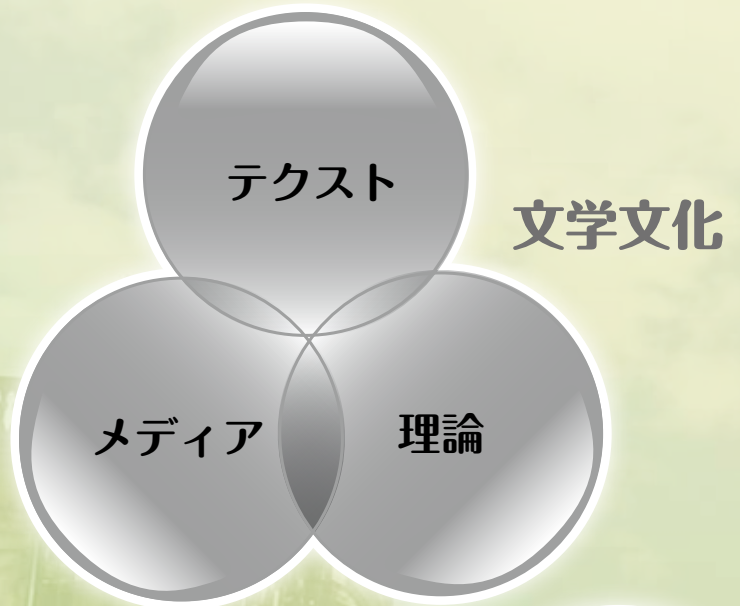
Thomas Pekar 教授

専門

ミュージル、ホーフマンスタール、カフカ、ユンガーなどの作家研究とならび、文化比較の観点からナチス時代に亡命した作家たち、特にユダヤ人作家を中心に研究しています。

授業

ドイツ語圏の主要な作家の作品について分析と議論を行っています。最近の授業では、ナチス時代の亡命文学、ゲーテの書簡体小説『若きヴェルターへの悩み』の20世紀における受容、カフカの謎めいた作品『審判』をテーマとしてゼミを行いました。



教育と実践

ドイツ語教育



小林和貴子 准教授

専門

人々はどのように「聴いて」きたのか。聴覚のありようは歴史的、文化的、メディア的に規定されるものであるとして、聴覚芸術は主にラジオドラマあるいは聴覚劇をもとに、時代ごとの「聴き方」を分析しています。

授業

小説にせよ映画にせよ、ある物語的テキストに出会ったとき、私たちがそのジャンルを推測することができるのはなぜでしょう。2011年度の「ジャンルとしてのKrimi」を扱う授業では、「サスペンス」を例に、ジャンルのコミュニケーション的機能を探ります。

言語学

通時言語学

共時言語学 応用言語学

ドイツ語 運用能力 の向上



高田博行 教授

研究

言語はなぜ変化するのか。この答えとして、私は人を取り巻く社会の構造や、人と人のコミュニケーションのあり方の変化に応じて言語が変化するプロセスに注目します。「人の顔が見える」ようなドイツ語史記述を目指しているわけです。

授業

「歴史語用論入門」、「歴史社会言語学入門」という授業名で、魔女裁判記録の口語性、戯曲のなかの呼称詞、辞書のなかの野卑語、アメリカ移民のドイツ語、ナチズムのドイツ語等を扱いました。



渡辺 学 教授

専門

ドイツ語圏と日本の言語学史を随時参照しながら、対照言語学も視野に収めつつ、ことばの多様性、メディアのなかのことば、ことばのスタイル、コミュニケーションの特性や機能を考究しています。

授業

「ことばと社会」という総合テーマのもとで、言語とコミュニケーションの「グループ性」を、ドイツ語等で書かれた専門書精読により掌握します。双方向的なディスカッションを重視し、グループ内外/異文化(間)コミュニケーション、話者聴者のアイデンティティに注目します。



保阪良子 准教授

専門

社会言語学から研究をスタートさせましたが、現在はテキスト言語学、語用論、意味論、統語論、造語論を対象としています。非ドイツ語母語話者にとっては必ずしも自明でない現象を説明し、他の現象とどう関連付けるかが最も大きな関心事です。

授業

様々なテキスト種類を用いてドイツ語読解能力を高め言語学の基礎知識を学び議論する授業を心がけています。文学作品の和訳・独訳・オリジナル比較、ドイツの言語政策、現代ドイツ事情・文体・間テキスト性、あるいは現代言語学入門などをテーマとしています。



岡本順治 教授

専門

おおきな枠では、人間の認知活動の一環として言語を見る「認知言語学」が専門です。具体的には、ドイツ語の分離動詞(Partikelverben)の仕組みの解明、心態詞(Modalpartikeln)の意味を近年は扱っています。

授業

言語を分析する時に、直感的な説明ではなく、科学的な方法論が必要になります。近年では、コーパス言語学、音声学・音韻論、統語論、意味論などの基礎的知識と理論をきちんと理解するための授業を行っています。



脇 なつみ (博士前期課程1年)

ドイツ語ドイツ文学専攻の魅力的な点は、先生方との距離が非常に近いことと、勉強の自由度が高くなることです。学部での授業に比べて大学院では発表やディスカッションを通して先生や先輩の意見を聞く機会が増えるので、自分の考えと向き合い、様々な観点から考察することができます。

また他専攻や他大学の方との交流もあるので、専門的であると同時に広い視野を持って学べる環境があります。当然、勉強は学部時代より大変ですが、努力の成果が自分に返ってくるのでとてもやりがいを感じられます。

現在、ティーチング・アシスタント(TA)として、学部生にレジュメ作成や発表のアドバイスなどを行っています。自分が学んできたことを伝えるのは意外と難しいのですが、学部生とのやり取りから学ぶこともあり、非常によい経験になります。

修士論文では20世紀初頭のドイツ社会における身体性について扱う予定です。この環境を活かして少しずつ進めていきたいと思っています。

脇さんの時間割

	月	火	水	木	金
1			文学文化入門ゼミナール(TA)		
2					
3		ドイツ文学特殊研究		ドイツ文学演習	ドイツ演劇演習
4			ドイツ文学演習	ドイツ語学演習	外国書講読(経済学部)
5					



田中 翔太 (博士前期課程2年)

私はメディアという観点から見たトルコ系移民のドイツ語について研究しています。私の研究テーマが比較的新しいため、主にドイツ語で文献を読むことが求められ、そこで多くの時間が割かれます。ただ時間を有効活用し自主的に取り組むことで、学会発表や書いた論文の公刊など、さまざまな可能性が開けました。金銭面で心配している方も、大学院に入ると学部時よりも多様な奨学金を受けるチャンスがあるので、積極的に情報収集をしてみてください。またドイツへ行った際、高田教授の紹介でドイツ南西部の町、マンハイムにあるドイツ語研究所の教授と面談を持ったこと、1年時にDAADの夏期講習奨学金を取得し1カ月間ドイツに滞在したことで、学部の時は漠然としていた研究の方向性が明確になりました。大学院に入ると、学会や研究会で他大学の教授とも交流を持つ機会が増え、視野が広がり、そこから様々なアイデアを得ることができます。

田中さんの時間割

	月	火	水	木	金
1					
2		ドイツ語史特殊研究		言語・情報講義(4)(TA、後期)	
3	ドイツ語学特殊研究				
4					
5					



過去3年間に提出された修士論文題目

- ポストドラマ論から見た能
- ドイツの若者ことば
- 桂離宮における「つくられた」単純さ
ーブルーノ・タウトの世界観を作り上げた背景ー
- 政治におけるメディアの作用
- ゲーテとシャミッソーに於ける異文化の記述
- 19世紀ドイツにおける民衆メルヒェンの受容
- ドイツの対外言語政策

ドイツ語ドイツ文学専攻フロア図 (北2号館3階)

廊下



閲覧室

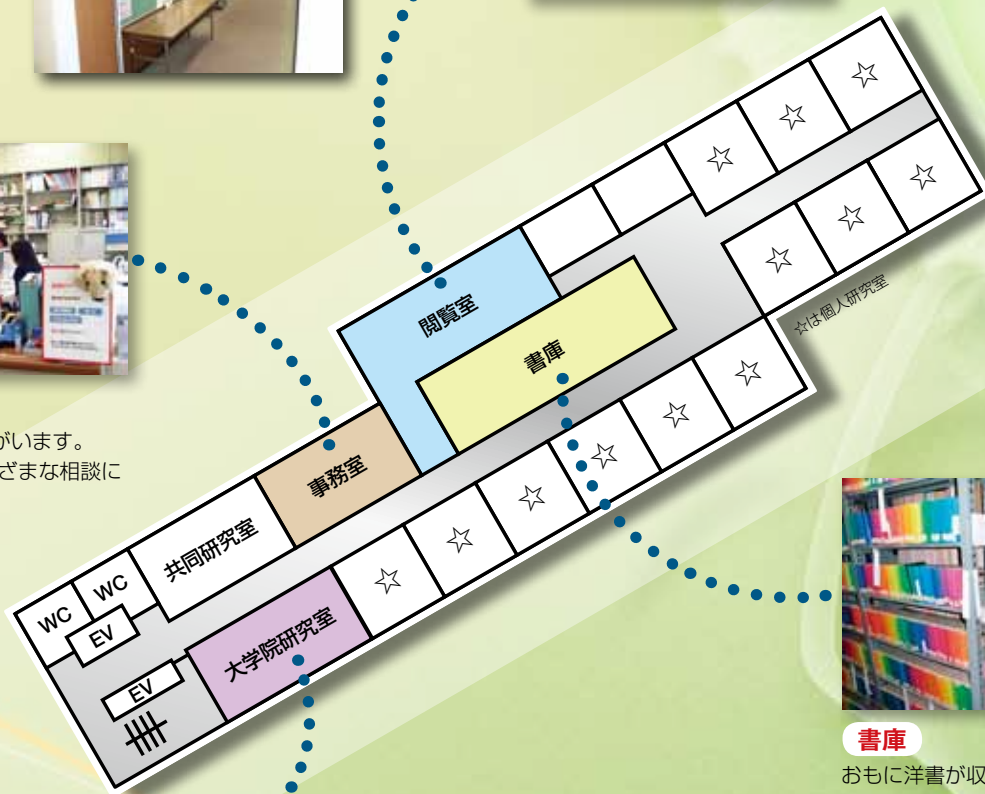


書庫の資料を閲覧する場でもあり、おもに学部生が集まって勉強したり、食事したり、情報交換を行う場所です。和書やDVD、ビデオ等の資料が配架されており、AV機器もあります。



事務室

助教1名と副手2名がいます。履修、留学などさまざまな相談に乗っています。



書庫

おもに洋書が収められています。この他、和書は閲覧室と共同研究室にあります。古い資料は地下書庫に収められています。

大学院研究室



通称「院生室」。大学院生、研究生等が集まる場所です。個人の研究以外にも大学院の授業や研究会がここで行われます。

大学院修了後の進路

初めから研究者や大学教員になりたいと思って、大学院への進学を考える人ばかりではありません。学部時代を終え、もう少し深く勉強したいと思って進学し、その後は社会に出て働きたいという方もいるでしょう。本専攻では修士号取得後に社会に出て活躍している人もかなり多くいます。ドイツ語圏の企業、大使館や外務省、通訳・翻訳者、出版社や新聞社といったマスコミ関連、旅行会社などに就職しています。博士課程に進学した先輩は、その後は大学や高校の教員として活躍しています。専門の勉強をしながらでも、就職先の調査やそのためにすべきことをしっかり考えることができます。どうぞ知的好奇心を満たすべく大学院への進学を一度考えてみてください。

めぐまれた研究環境

大学院生のための研究支援

大学院生の研究活動を支援するために数々の奨学金や研究支援の枠組みが用意されています。また、DAAD(ドイツ学術交流会)奨学金によるドイツ留学や日本学術振興会特別研究員の申請も全面的にバックアップします。

●奨学金

学習院大学奨学金（貸与）
日本学生支援機構奨学金（貸与）
学習院大学教育ローン金利助成奨学金（貸与）
学習院大学学業優秀者給付奨学金（給付）
安倍能成記念教育基金奨学金（給付）
学習院大学海外短期語学研修奨学金（給付）
学習院大学海外留学奨学金（給付）

DAAD（ドイツ学術交流会）奨学金の合格者も毎年のように輩出しています。

日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の申請もバックアップし、多くの採用者を輩出しています。

●研究補助費

人文科学研究科特別研究費（1人20万円、博士後期課程の学生全員に支給）
国内外での学会発表のための旅費・滞在費補助

研究環境

ドイツ語ドイツ文学専攻は大学院生用の研究室を供え、学科図書室は洋書約50,000冊、和書約4,000冊を所蔵しています。また、雑誌『学習院大学ドイツ文学会研究論集』を発行して研究発表の場を提供するだけでなく、各種学会での口頭発表や論文投稿を支援しています。

蔵書：洋書およそ50,000冊、和書およそ4,000冊を所蔵

院生室：4台のパソコンと豊富な資料を供えたゆとりの空間

研究発表の場：「学習院大学ドイツ文学会」による研究発表会と『学習院大学ドイツ文学会研究論集』（査読有）で研究の成果を発表できます。また、『学習院大学人文科学論集』（査読有）にも投稿可能。





教員の研究活動

近年の外部資金によるプロジェクト(一部抜粋)

- ・「18世紀ドイツの書きことばにおける口語性の機能—社会語用論的・言語意識史的研究」
科研費:基盤研究C、2011年度～2013年度(予定)、研究代表者:高田博行
- ・「新概念『亡命の文化テキスト』の確立—東アジアへの亡命研究を通して」
科研費:基盤研究C、2011年度～2013年度(予定)、研究代表者:Thomas Pekar
- ・「『ポライトネス』の日独語対照比較—社会心理学を援用して」
科研費:基盤研究C、2010年度～2012年度(予定)、研究代表者:渡辺学
- ・「強制された旅—第二次世界大戦中のアジアへの亡命—についての社会人類学的観点からの研究」
科研費:基盤研究C、2008年度～2010年度、研究代表者:Thomas Pekar
2010年9月17日～18日 シンポジウム「東アジアにおける亡命(1933-1945)」をGoethe-Institut Tokyoと学習院大学において開催
- ・「歴史語用論から見た談話標識の発達—ドイツ語・英語・日本語の事例に則して」
科研費:基盤研究C、2006年度～2007年度、研究代表者:高田博行
- ・「日独対照メディア言語学 言語記号と視覚的記号の關係に焦点を当てて」
科研費:基盤研究C、2006年度～2008年度、研究代表者:渡辺学
- ・「18世紀におけるドイツ語の理論態と経験態 構文と語順をめぐって」
三菱財団人文科学研究助成、2006年度、研究代表者:高田博行
- ・「『思想』としての正書法改革—ドイツ語史における規範議論:1700～1850年」
科研費:基盤研究C、2004年度～2005年度、研究代表者:高田博行

人文科学研究所研究プロジェクトとの連携

本専攻の教員が協力して、本学の人文科学研究所における共同研究プロジェクトを立ち上げています。本専攻の大学院生も、研究メンバーとして、これらのプロジェクトに参加しています。

- ・「『ポライトネス』の日独語対照比較—社会心理学を援用して—」
(代表:渡辺学)、2009年度～2010年度
- ・「歴史語用論に関する総合的研究」
(代表:高田博行)、2008年度～2010年度
- ・「ドイツ語の話しことばに関する総合的研究」
(代表:高田博行)、2005年度～2007年度
- ・「Figuration 概念による文化的表象の分析と文化研究の教育モデルの開発」
(代表:大貫敦子)、2003年度～2004年度



海外研究者との活発な交流

本専攻ではドイツ語圏を初めとする研究者を積極的に招聘し、本専攻で共同研究、講演会、大学院生への授業および研究指導を行っていただいています。過去6年間に「学習院大学客員研究者」として来日いただいた方は次の通りです(所属は当時)。

- ・ Bernd Müller-Jacquier氏、バイロイト大学教授、2011年2月～3月
- ・ Stephan Elspaß氏、アウクスブルク大学教授、2008年11月～12月
- ・ Peter Schlobinski 氏、ハノーファー大学教授、2008年10月
- ・ Irmela Hijiya-Kirschner氏、ベルリン自由大学教授、2008年9月
- ・ Csaba Földes氏、ヴェスツプレーン大学(ハンガリー)教授、2007年9月
- ・ Andreas Jucker氏、チューリッヒ大学教授、2007年7月
- ・ Christa Dürscheid氏、チューリッヒ大学教授、2006年11月
- ・ Jörg Kilian 氏、ハイデルベルク教育大学教授、2006年9月～10月



本専攻で講演・ワークショップを行った研究者(抜粋)

- ・ Elizabeth Closs Traugott氏、スタンフォード大学(アメリカ)名誉教授、2011年3月
- ・ Andreas H. Jucker氏、チューリッヒ大学教授、2011年3月
- ・ Irma Taavitsainen、ヘルシンキ大学(フィンランド)教授、2009年3月
- ・ Peter Auer氏、フライブルク大学教授、2008年3月
- ・ Arnulf Deppermann氏、マンハイム大学教授、2007年11月
- ・ Johannes Schwitalla氏、ヴェルツブルク大学教授、2007年3月
- ・ Werner Kallmeyer氏、マンハイム大学教授、2006年3月



2012年(平成24年)度
学習院大学大学院人文科学研究科
ドイツ語ドイツ文学専攻
学生募集要領

博士前期課程

■ **秋期入学試験 (募集人員約 2 名)**

試験日：9月24日(土)

出願期間：2011年9月2日(金)～9月6日(火)

■ **春期入学試験 (募集人員約 3 名)**

試験日：2月20日(月)

出願期間：2012年1月10日(火)～1月12日(木)

博士後期課程

■ **春期入学試験 (募集人員約 2 名)**

試験日：2月20日(月)

出願期間：2012年1月10日(火)～1月12日(木)

◆出願資格、試験科目など入学試験に関する詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/adm/adm/main.html>

◆大学院人文科学研究科の資料・募集要項の請求については以下のHPをご覧ください。

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/adm/adm/request/index.html>

◆お問い合わせ先

○人文科学研究科募集要項の請求や、ならびに入学試験に関するお問い合わせ

学習院大学アドミッションセンター (西5号館4階)

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL. 03-3986-0021 (代表)

電話受付時間 平日 9:00～11:30、12:30～16:30 土曜日 9:00～12:00

E-mail: adms-enq@gakushuin.ac.jp

○ドイツ語ドイツ文学専攻に関するお問い合わせ

学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科事務室 (北2号館3階)

TEL. 03-3986-0221 (代表)

E-mail: germ-off@gakushuin.ac.jp